

千葉駅周辺の活性化グランドデザイン

現在のランドデザイン：策定の主旨

■策定の主旨

①平成28年3月に策定

- 当時の策定趣旨は、千葉都心では、建築物の建て替えが進まず、まちが大きな変化をしていないことから、千葉駅周辺の求心力の低下が懸念されていた。
- しかし、JR千葉駅の駅舎・駅ビルの建替え、西口や東口で実施・計画されている再開発事業など、駅周辺でリニューアルの動きが出てきていることから、これを契機と捉え、まち全体のリニューアルによって魅力を高めていく必要がある。
- そのためには、千葉都心全体の将来像や取組みの方向性を明確化する必要があるとして「千葉駅周辺の活性化ランドデザイン」を策定した。



千葉駅西口地区再開発(A工区)



千葉駅・駅ビルの建替え

現在のランドデザイン：策定の主旨

■策定の主旨

②令和2年12月に一部改定

- 令和2年度には、当初策定以降、千葉都心の各所において民間によるリニューアルの動きが活発化したことを受け、一部改定を実施。

<一部改定内容>

(1) 駅周辺共通の方針を追加

- ・ 都心居住の推進による賑わいの創出
- ・ ウォーカブル推進による「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出

(2) 先行整備プログラムの新規追加・進捗状況を反映

- ・ 「西銀座周辺再開発」の開発動向を反映
- ・ 「JR千葉支社跡地周辺整備」を新規追加
- ・ 「中央公園・通町公園の連結強化」に通町公園再整備の基本計画を反映

(3) その他、時点更新（開発動向等まちの変化、各種統計データ等）

現在のランドデザイン：策定の主旨

■策定の主旨

③ウォーカブル推進による「居心地が良く歩きたくなる」空間とは

車が主役であった道路空間を、ひと中心の空間に再編することで、人々のまちなかでの回遊を促し、人々がまちなかに集うことによる、偶然の出会いなどから生まれる、居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指すまちづくりのこと。



現在のランドデザイン：特徴

■特徴

（１）３つのエリア

JR千葉駅周辺は主にJR線によって物理的に3つのエリアに分断されているため、千葉都心全体の方向性のほか、東、西、北の3つのエリアごとに、特色等を踏まえた方向性を整理。

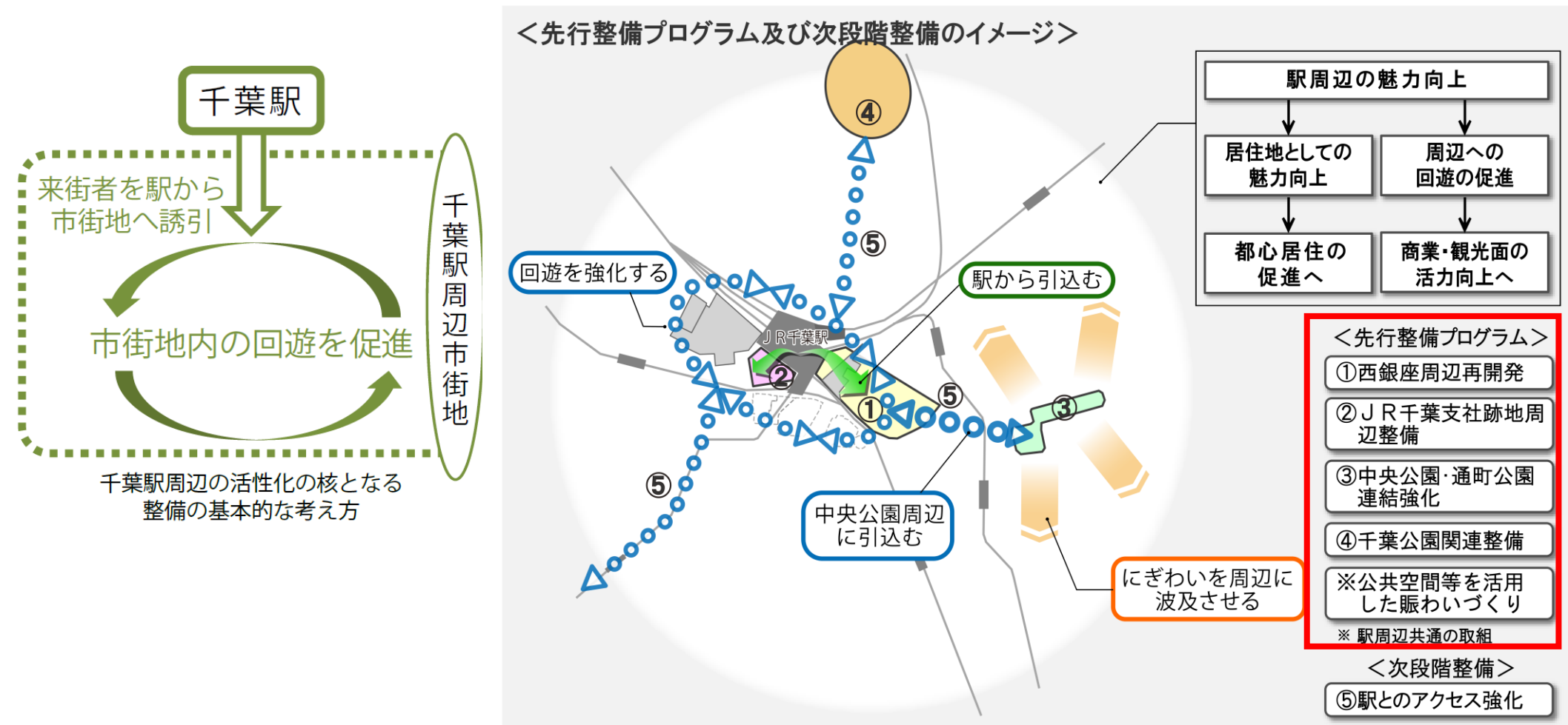
（２）商店街の特色

千葉駅周辺には複数の商店街があり、駅周辺の活性化を目指して、皆で力を合わせてまちづくりを進めていくためには、これら商店街毎の特色をいかに活かしていくかが重要なポイントと考え、勉強会などを通じて、商店街の皆様的特色などを提案していただき、計画に反映した。

現在のランドデザイン：特徴

(3) 先行整備プログラム

千葉駅から市街地へ来街者を誘引する「引き込む魅力」となる施設等の整備を先行整備プログラムに位置づけ、千葉駅と市街地を結び、市街地内の回遊を促進する「つなぐ軸の強化」を次段階整備として行う。



現在のランドデザイン：課題と方向性

■活性化に向けた課題

商業 商業環境の競争激化と商業環境の求心力低下

→千葉商圈の維持による商圈人口の確保

観光 市や駅周辺の施設を訪れる観光客の減少とインバウンドの強化

→駅周辺の観光施設と連携した観光客の誘致

→県の玄関口としてのアンテナ機能の発揮

→外国人が楽しめる買物機能の強化と環境整備

人口 千葉市の総人口の将来的な減少と情報発信力の高い若年層の将来的な減少

→生活支援機能の整備による都心居住促進

→公園や文教施設などを活かした住み心地の良い環境づくり

現在のランドデザイン：まちづくりの方向性

千葉駅周辺の全体の方向性



- 千葉県内での求心力のあるまち
- 働く人、学ぶ人、住む人、観光客など、多様な人々が集まり賑わうまち
- エリア間における機能分担・連携による多様な魅力のあるまち

北エリア

公園や文化施設を
活かしたまちづくり

西エリア

安心の生活を
支援するまちづくり

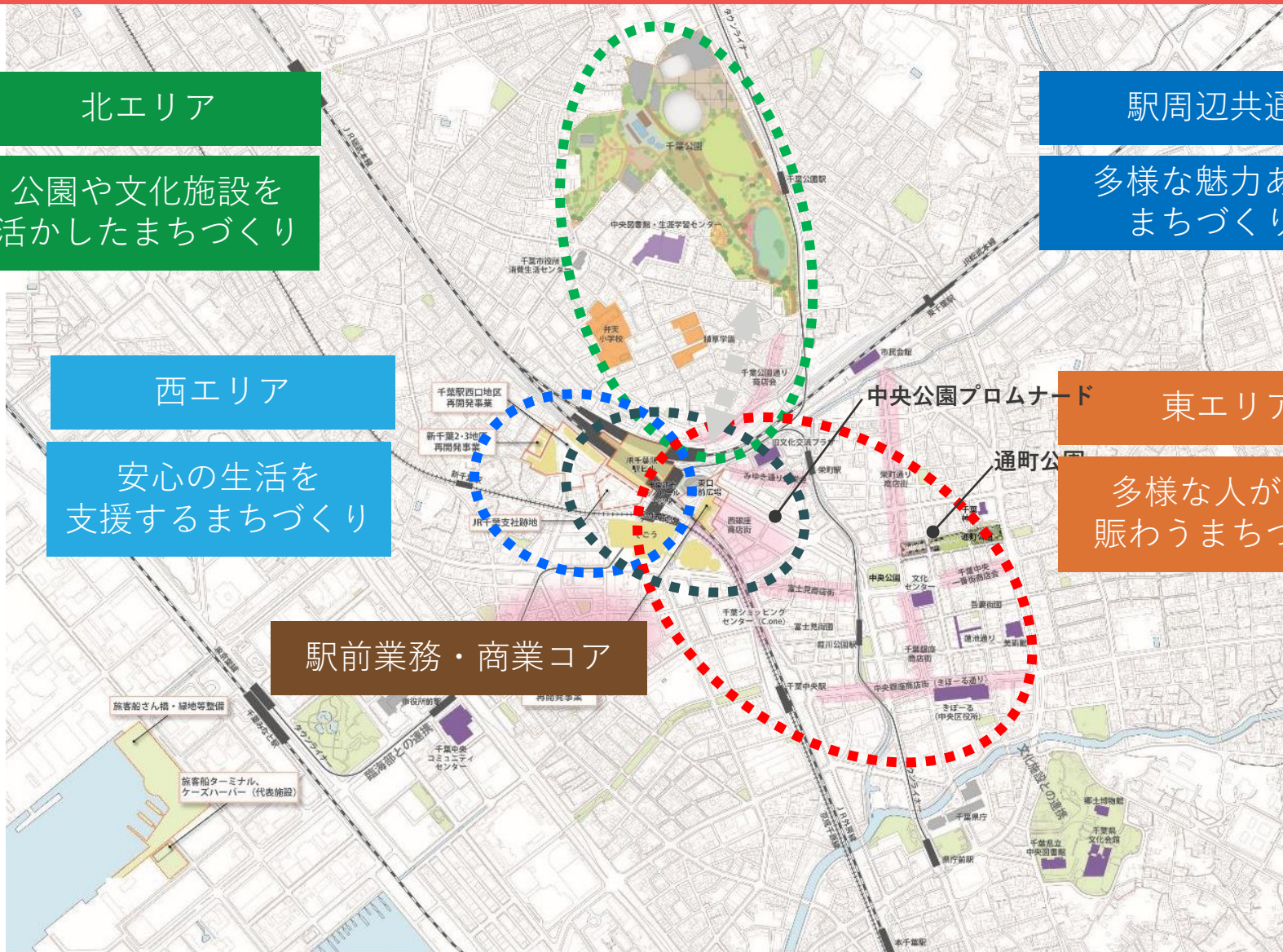
駅前業務・商業コア

駅周辺共通

多様な魅力ある
まちづくり

東エリア

多様な人が集い
賑わうまちづくり



今回の千葉駅周辺の活性化グランドデザイン改定の背景

千葉駅周辺の活性化グランドデザインの進捗

- 千葉公園関連整備及び、中央公園・通町公園の連結強化が進捗し**次のステップへと進める段階**となった。
- 千葉公園通りでは歩行者天国「ちこほこ」、中央公園プロムナードでは「パラソルギャラリー」や「CHIBA SDGs Parklet Project」、「ちば富士見屋台横丁」などの取り組みが行われ、**ウォーカブルなまちづくりに対する機運**が高まっている。

パラソルギャラリー



CHIBA SDGs Parklet Project



ちば富士見屋台横丁



都市政策として中央公園プロムナードに着目

■ 現状・課題

- 中央公園プロムナードは、千葉都心のメインストリートだが、建物の更新後は、住居に置き換わってきている。
- 更新を迎える建物が多くあり、これらの建物更新は千葉都心全体への大きな影響が予想される。
- 千葉駅前直近の業務・商業が集積するエリアについても、住居の計画が検討されつつある。
- 商業及び業務機能を有する施設が集積した立地環境の保全や、ウォーカブルなまちづくりの促進等を目的とし、中央公園プロムナード沿いに低層部への居住機能導入規制を拡大。



千葉大学 松浦准教授 都市デザインスタジオ作成

■方向性

- ・「中央公園プロムナード」を1つの都心形成の要素ととらえ、通過する場所から交流が生まれる場所へと転換し、千葉都心全体のエリア価値を向上を行い、千葉都心に人を呼び込む。

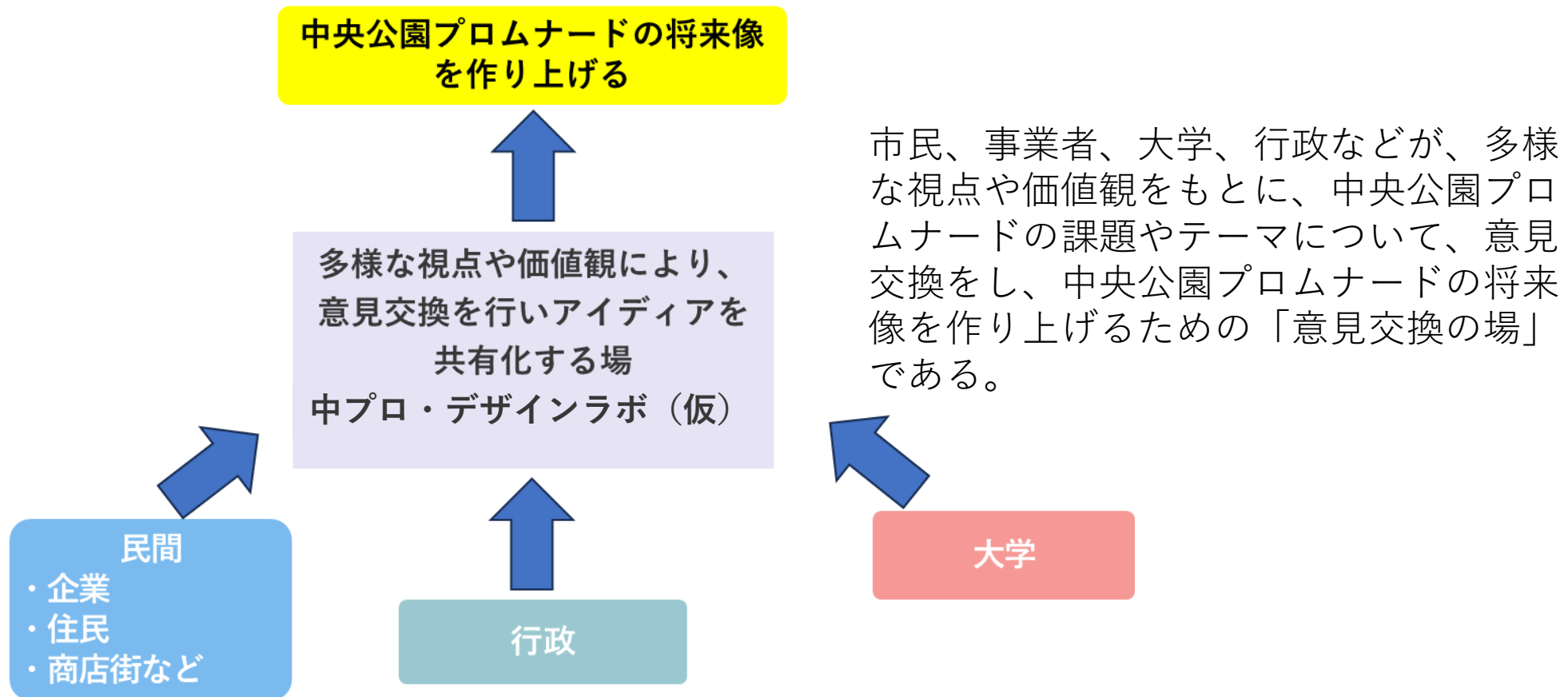


中央公園プロムナードの再編に着目して改定の検討を進める

中央公園プロムナードの再編／中プロ・デザインラボ（仮）

● ひと中心の再編

- ・ 歩行者空間の充実や環境改善（緑の憩いの場の拡大等）について検討
- ・ 通過する場所から交流が生まれる場所への転換について検討



END

千葉市まちづくりシンポジウム 「中央公園プロムナードの未来を考える」

シンポジウム「中央公園プロムナードの未来を考える」

開催概要

○日 時：令和6年11月16日（土）15：00～17：30

○場 所：千葉市役所 1 階正庁

○参加者：約 90 名

ひと中心の都市空間へ

千葉都心の「まちの顔」である中央公園プロムナードにスポットを当て、公共空間の利活用やウォーカブルな取り組みに活躍されている方々と市長とともに中央公園プロムナードのこれまでと未来について語る。



第1部

基調講演

歩いて楽しい街
～千葉都心の再生にむけて～



北原 理雄
千葉大学名誉教授

モデレーター



松浦 健治郎
千葉大学大学院
工学研究院建築学コース
准教授

パネリスト



山中 佑太
広島都心会議
シニアフェロー
一般社団法人エリア
マネジメントラボ理事



大藪 善久
株式会社 SOCI
代表取締役



古屋 秀
京葉銀行
法人営業部
地域振興担当部長



神谷 俊一
千葉市長

基調講演・話題提供の内容

第1部：基調講演 「歩いて楽しい街～千葉都心の再生に向けて～」



北原 理雄 氏（千葉大学名誉教授）

- ・ 2000年から中央公園プロムナードで開催しているパラソルギャラリーについて、市民がつくるパラソルギャラリーとなるまでの取組みの歴史や、パラソルギャラリーを始めるきっかけとなったコペンハーゲン・ストロイエの道路の歩行者空間化の取組みを中心に他都市での事例を紹介。
- ・ また、千葉のメインストリートとしての中央公園プロムナードのこれからについて必要な視点を提起。

第2部：パネルディスカッション・話題提供

山中佑太氏（広島都心会議）
メインストリート起点の都心再生



- ・ カミハチキテル（エリマネ団体）と広島都心会議の取組みを通じた、広島でのまちづくりを紹介。
- ・ 民間主導でのビジョンづくりとスモールステップで積み上げていく民主導の官民連携のまちづくりを紹介。

古屋秀氏（京葉銀行）
「CHIBA SDGs Parklet Project」を中心とした
中央公園プロムナードでのこれまでの取組み



- ・ 沿道企業として行っている中央公園プロムナードでの取組みを紹介。
- ・ 賑わいづくりとフードロス問題の解決のための「CHIBA SDGs Parklet Project」や中プロの道路上に設置したパレットテラスを紹介。

大藪善久氏（株式会社SOCI）
中央公園プロムナードの未来を考える



- ・ “多様な人々の出会い、交流の場を提供する”というウォークブルの視点から、姫路市、沼津市、千葉公園通りの事例を紹介。
- ・ 各地で実施したパブリックスペースをまちにひらく参加型の取組みを紹介。

松浦健治郎氏（千葉大学大学院准教授）
千葉市の顔としての中央公園プロムナードのリデザイン



- ・ 千葉大学、建築学コースの都市デザインスタジオでの研究を紹介。
- ・ 中央公園プロムナードのリデザインとして、沿道建物の分析や、市民が望むパークレットの方向性についてとりまとめを報告。

クロストーク「中央公園プロムナードの未来」のまとめ

向かうべき未来、将来ビジョンをすり合わせながら共有していくことの重要性

■向かうべき未来、ビジョンのすり合わせと共有を図る

行政だけではなく、中央公園プロムナードに関わる様々な人とビジョンを共有し、まちづくりを進める。

■多様な主体を巻き込んだ小さな取組みを重ねて共有・改善をしていき、ビジョンを完成させていく

中央公園プロムナードをどんな場所にしていくか、メッセージを伝えることは重要。そのためには社会実験などの小さな取組を重ねて、市民などの様々な人を巻き込んでいく。

オール千葉で行う体制づくり・プラットフォームの必要性

■中央公園プロムナードの可能性を広げるオール千葉で行う取組みへ

周辺エリアの関係者だけではなく、様々なプレイヤーを巻き込んでいく取組みや体制づくりが必要。

■官・民・学など主要な主体が積極的に連携するプラットフォーム

多様な主体が連携し、まちづくりを継続して進めていくための議論ができるプラットフォームが必要。

千葉のメインストリートとして、時代に合わせた柔軟な変化が必要

■中央公園プロムナードの可能性を広げるための変化が必要

現在の潮流やまちづくりの流れに応じて、エリアの発展を支えるインフラとして、その可能性を広げる様々な視点が必要。

■通過する場所から目的地となるような場所へ

単に通過するだけの通りではなく、緑が溢れ、居心地が良く、滞在したくなる公園のような通りが理想。そのための環境の整備としてのハード整備とそれを活かすソフトな取組みを時間をかけて行っていく。

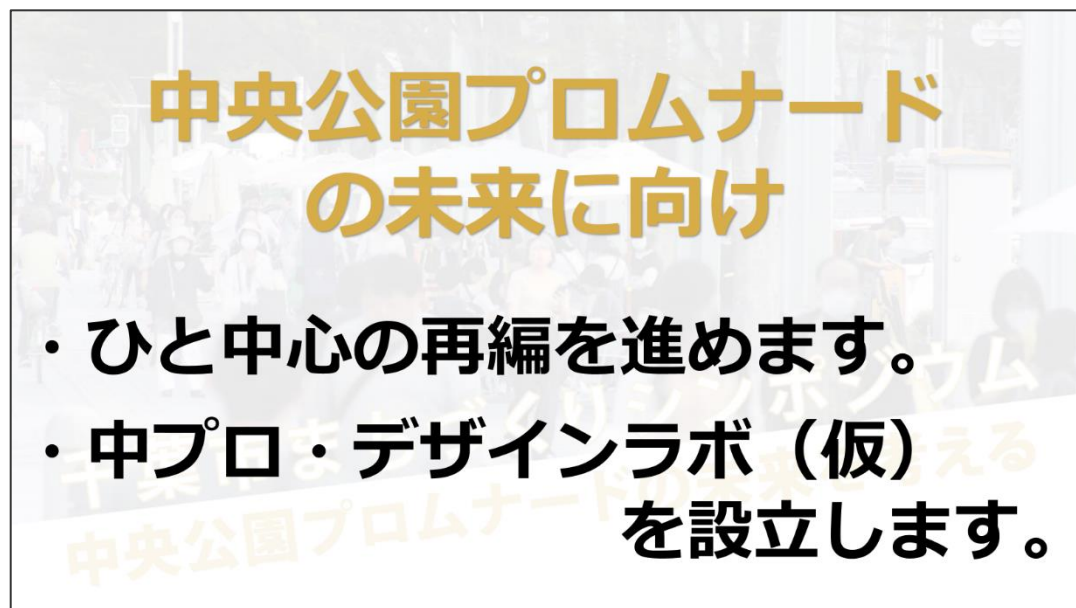
市長宣言

1. ひと中心の再編

- ひと中心のまちなかの形成に向けて、ソフト的な取り組み（社会実験など）に加え、ハードとしても道路のあり方について議論していきたい。
- その際には、千葉市における中央公園プロムナードとして、どのような構造、空間が良いのか、再編を含めて検討する。

2. 中プロ・デザインラボ（仮）の設立

- 行政だけではなく、関係者、有識者、まちづくりに関心のある人など、多様な人が議論できる場として、デザインラボ（仮）を設立する。
- 中央公園プロムナードだけではなく、中央公園や通町公園、千葉銀座や富士見町などエリアとしてのまちづくりについて議論をしていきたい。



END